

# 陽だまり

Vol.18

2011.9月

発行 (株)がんの子を守る会 広島支部「陽だまり」広報

事務局 〒734-8555 広島市南区倉1-2-3 広島大学医学部小児科学教室

TEL:082-257-5212 FAX:082-257-5214

## 支部設立10年を迎えました!



去る5月15日(日)、広島大学広仁会館にて、がんの子供を守る会広島支部の第10回総会並びに支部設立10周年記念講演会を開催しました。当日は、患者・家族はもとより、医療関係者・看護学生など、小児がんの治療や小児がんの子供たちへのケアに高い関心をお持ちの方々、約170名に御参加いただき、盛大かつ有意義な会とすることができました。開催に当たり御支援・御協力を賜りました関係者の皆様へ心より感謝いたします。

代表幹事 藤川京子

## 第10回総会及び支部設立10周年記念講演会を開催しました!

本年度の総会は、まさに記念すべき10回目の総会でした。まず藤川代表幹事が、「病氣の子供たちに笑顔を届けることができたと支部活動が果たしてきた役割を述べ、更に活動を充実させていこうと呼びかけました。その後、10年間の活動を振り返るスライドを上映しました。「何から始めればいいんだろうか」とまさに手探り状態で出発した当初。それから10年、日々、地道な活動を一歩また一歩と積み重ねてきました。楽しかったキャンプやクリスマス会、みんなで真剣に学び考えた医療相談会や講演会など、走馬灯のように頭の中によみがえり、非常に感慨深いものがありました。



記念講演会では、まず本部のソニーチャイルドカー種口明子先生から、本部の活動について紹介がありました。その中で、東日本大震災で被災された患者・家族に対する支援について触れられました。次に大阪府立総合医療センター副院長で小児がん学会理事長の原純一先生から「小児がんの治療の現状とこれから」と題し、最新の小児がん治療などについてお話いただきました。続いて聖路加国際病院副院長の細谷亮太先生からは「小児がんの子供たちのトータルケア」についてお話いただきました。ただ治療にだけ目を向けるのではなく、患者である子どもとその家族の抱える精神面等も含めたさまざまな困難を、医療従事者をはじめとする関係者がチームを組んで、トータルにサポートしていくことの大切

さを述べられました。患者である子どもを「一人の人間として支える」という先生の言葉が心に残りました。講演会の後は、「小児がんのよりよい治療とケアについて」のテーマのもと、広島大学病院小児科小林正夫先生を座長に、樋口先生、原先生、細谷先生、広島大学病院小児科病棟看護師長の田本信江さんをパネリストとして、会場の参加者も交えた積極的な議論が行われました。施設の整備、長期フォローアップの体制、子どもたちの学習支援など、病院の取組が紹介され、長いケアのために何が必要かを考えることができました。活発に意見が出される中、あっとい間に終了時間がきてしまいましたが、ティヌカセッションの中で発言した小児がんを経験した若者たちの声は、心へ響く大きな力をもって参加者へ届いたように思います。



さて、がんの子供を守る会広島支部は、次のステップへと前進してゆかなければなりません。これからも会員相互の連携を深めながら共に頑張りましょう。(河田)



### <総会・講演会の歩み>

支部設立10周年の節目として、これまでの総会、講演会を振り返りました。

- 第11回 2002.4.25-26 講演「がんをどうとらえよう」と題して、細谷亮太先生(聖路加国際病院)講演「セリケアグループとしての支部活動」近藤博子先生(本部ソーシャルワーカー)
- 第12回 2003.8.14 講演「病氣の子供たちの教育実践と社会的自立支援」谷川弘治先生(西宮文学院大学)、「ネリケアスナクセッション」院内学級と生涯教育「原良人先生(広島大学病院)
- 第13回 2004.4.29-30 コレオ・トビエ・ユメ・カズミ「セリケア」をテーマに「何? 種口明子先生(本部ソーシャルワーカー)」
- 第14回 2005.6.4-5 講演「癌と向き合いながら」石本浩市先生(あけぼの小児クリニック院長)
- 第15回 2006.5.27-28 講演「がん治療と家族のQOL」石田世寸志先生(愛媛大学病院)、「小児がん経験者のサポート」ウラナク小児科野澤子先生(小児がんネットワークMANプロジェクト)
- 第16回 2007.6.14-15 講演「小児がんの子と向きあえる心のケア」佐伯敏弘先生(広島大学病院)
- 第17回 2008.5.21-22 講演「小児がん治療に対する社会と医療関係者の意識」森田良一先生(新潟県立がんセンター新潟病院)、「講演ハイパーソニック」について「林三枝先生(ハイパーソニック共済連帯局長)
- 第18回 2009.5.29-30 講演「病氣の子と向きあえる〜教育の立場から〜」船瀬守久先生(広島大学病院)
- 第19回 2010.4.22-23 講演「病氣の子と向きあえる〜教育の立場から〜」船瀬守久先生(広島大学病院)
- 第20回 2011.5.15-16 講演「がんの子を守る会」の活動について「樋口明子先生(本部ソーシャルワーカー)」、講演「小児がん治療の現状とこれから」原純一先生(大阪府立総合医療センター)、「講演小児がんの子と向きあえるトータルケア」講演亮太先生(聖路加国際病院)、「ネリケアスナクセッション」について「原良人先生(広島大学病院)

### NEWS

<MAKTY交流会の報告>

広島支部設立10周年記念講演会が開催された5月15日の午前中に、MAKTY交流会を、守る会本部ソーシャルワーカーの樋口さんに参加していただき開催しました。参加者は7名。自己紹介から始まり、入院中、退院後の生活や告知について話しました。会の後半には、治療中のお子さんをお持ちの皆さんが急遽参加してくださり、みんなで見聞を出し合うことができました。また、専門的な内容には樋口さんから説明をいただきました。講演会の前だったので少しリタイアしてしまいましたが、いい交流会になりました。次回の交流会は未定ですが、今後もよりよい交流会にしていきたいと思います。(綱本)

<バックステージを行っています!>



広島大学病院小児病棟で、毎月2回行われている「ミニミニ幼稚園」に去年の春から参加させていただいています。ミニミニ幼稚園では、季節に合わせた絵本の読み聞かせ、工作遊びが行われていて、子ども達に興味深そうに取り組んでいる姿が見られます。私はその子ども達の付き添いのお母さん方への簡単なマツサージをさせてもらっています。マツサージといっても、リハビリマツサージやリフレクソロジー、指圧などとは違って、手や足、背中全体を柔らかく包み込みようにならざることで、不安な感情や痛みを和らげる効果が期待されているケアの一つ「タクチケールケア」というものです。タクチケールケアは、緩和ケアにおけるスウェーデン独特の療法で、日本では介護や医療の現場で注目されてきています。もちろん注意事項はありますが、いつでもどこでも誰にでも行えるのでとても有難い魅力があるケア方法だと思います。静かな場所でも、ゆったり気分が落ち着く状態で行うことができれば、より効果が期待できるのです。実際は子ども達のにぎやかな声を聞きながら、子どもたちの作業を手伝っているお母さん方の背中をなでています。そんな状態でも、一人でも多くのお母さんに触れることができます。たまたた10分程度ですが、いつも笑顔で明るいお母さん方に「なでなで」することで「ふーっ」と息抜きのお手伝いができればいいなと思っています。まだまだ微力ではありますが、肌と肌とのふれあいを大事にしながら、活動に参加していきたいと思えます。お母さん方、いつも快く背中を貸して下さいありがとうございます。これからもよろしくお願ひ致します。(福田)

### 支部設立10周年記念講演会「ソネット」結果の報告

支部設立10周年記念講演会のソネットでは88名の前に参加いただきました。おかげさまで、講演会の内容については、91%と多くの方が「よかった」と回答し、充実した講演会になったと考えています。以下、参加していただいた感想です。

- トータルケアの話や治療の話なども勉強になった。「ネリケアスナクセッション」も充実した内容であった。(小児がん経験者)
- 小児がんの治療、フォローアップ、緩和ケアまでトータルにお話が聞けてとても参考になった。「ネリケアスナクセッション」では小児がん経験者の話も聞けて、小児がん経験者同士、家族のつながりを持つことが大切だと思った。(家族)
- 小児がん経験者の話が聞けてよかった。治療中、後、家族、遺族へのサポートなども考えさせられた。患者へだけでなくその周りの方々への精神的ケアをできるような医療者でありたい。(医療関係者)
- 小児がんについての知識がなかったが講演者の先生方がわかりやすく話してくださり理解できた。「ネリケアスナクセッション」では、病院の取り組みやボランティアの活動など色々な話を聞くことができても勉強になった。(学生)

### INFORMATION

広島支部へのご支援ありがとうございました

エトワール歯科 (株)ネクスス 前川恒策 喫茶紫陽花 レストラン「ともえ」 永井幸治 (敬称略)